

書籍紹介



『やさしい時間 ーあるグループホームの暮らしー』

ワーカーズコレクティブとも編

創風社出版 定価(本体 1,200 円+税)

ともの家でのお年寄りの暮らしのイキイキと記録した文章と写真、ご家族の想いを綴った文章などが掲載されています。



『だいじょうぶ ありがとう』

ー家族によるグループホーム写真展ー』

社会福祉法人ともの家 家族の会編

発行：社会福祉法人ともの家 頒価 1,000 円

写真展にて展示されたともの家での日々の写真と職員の介護に対する言葉、また写真展にお越しくくださった方々のコメントなどが掲載されています。



『介護ひまなし日記 新米ケアワーカー奮闘記』

永和里佳子 著

岩波書店 定価(本体 1,800 円+税)

新米ケアワーカー永和里佳子(現:小規模多機能ホーム第2ともの家管理者)の目線で書かれた日々の記録です。

- 2007年 第2回CANPANブログ大賞 大賞受賞
- 2010年 愛媛出版文化賞 奨励賞受賞

愛媛出版文化賞

受賞者に聞く

【奨励賞】

「介護ひまなし日記」

―新米ケアワーカー奮闘記―

(岩波書店発行)

永和 里佳子さん(38)

松山市湯の山6丁目

時に「暴走」もする入っかけにも。寝たきり居るも、一人一人、人の人が養を持ってご飯生があり感情を持ったを食べられるようになる人間であるとのメッセージが込められていて人を笑わせるまでになる。「認知症も個性だ」なったり。「安全を寺」と思う。本人に分かる、食事を与えるだけないことがあっても、が介護ではない。大切それを受け入れてもらなのは「普通の人」と

認知症は「個性」訴え

第一線生き生きと描く

認知症への偏見は残り、介護職のなり手不足も伝えられて久しい。それでもその第一線を描いた受賞作からは、奇跡としか形容できないよつな体験や、

ドラマ以上にドラマチの中で妻への思いをつつクな出来事が生き生きと浮かび上がる。アルツハイマーから言記憶が失われる不安薬を取り戻した女性。に変化をもたらせるる。



アルバイトのつもりで介護の世界に入っ家」(松山市湯辺町)で7年。現在は家庭的な雰囲気の小規模多とめる管理者兼ケアワーカーとして活躍する。

出版のきっかけになったブログは更新が滞り気味。「書きたいことはたくさんあるが忙しくて、ぼちぼちでも書いていけたら」「新米」ではなくなっても「ひまなし」は当分続きそうだ。

(坂本敦志)

「もっと福祉が伝えられることはあると思う。これからは地域にかかわっていきたい」と話す永和里佳子さん(左)